

1. 平成23年10月～12月期の景気動向

全業種のDI平均値は、前期(7～9月期)の40.2ポイントから15.8ポイント改善し、24.4ポイントとなった。業種では、全業種で改善され、特に卸売業の業況がプラスに転じる結果となった。全業種とも需要の停滞を当面の問題として1位にあげている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月	10～12月	1～3月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		33 (61)	59 (61)	12 (11)	18 (9)	10 (46)	10 (73)	31 (48)	38 (45)	32 (29)	36 (19)
採算		50 (92)	58 (69)	19 (22)	33 (31)	10 (27)	20 (36)	48 (52)	49 (59)	22 (14)	27 (15)
資金繰り		34 (92)	67 (61)	17 (16)	10 (19)	10 (18)	10 (27)	29 (40)	28 (42)	5 (5)	19 (5)
業況		46 (69)	36 (59)	17 (24)	28 (34)	10 (46)	30 (50)	38 (48)	39 (52)	31 (14)	50 (20)
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		製品(加工)単価の低下		販売単価の低下		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下		製品ニーズの変化への対応		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		利用料金の低下	
業種別 コメント		<p>公共工事の発注も出始め、徐々に仕事量が回復してきており、前期に引き続き全項目でDI値が回復した。</p> <p>本格的な冬場を迎える来期にどれだけの仕事量を確保できるか、また春先からの工事の受注が今後の課題である。</p>		<p>前期に引き続き冬場の季節商品が好調であり、またタイの洪水により一時的ではあるものの一部国内生産となったこともあり、全項目でDI値は回復した。</p> <p>しかしながら、原材料の高騰、海外企業との価格競争など業界を取り巻く環境は以前厳しい状況にある。</p> <p>技術力向上はもちろんのこと、個々の経営資源を活かすような中小企業同士の連携が更に重要となっている。</p>		<p>全項目DI値が改善され、前期に比べ売上が36ポイント、業況については56ポイント回復した。</p> <p>来期見通しでも改善の見込みはあるが、需要停滞等の不安材料は残り、人件費以外の経費の増加など問題が挙げられている。</p> <p>今後も引き続き、積極的な営業業務が必要である。</p>		<p>冬場に向け消費マインドも上向いてきている。特に冬物商品の売上が好調で、全項目とも改善された。食品関連では、やはり放射能の影響を懸念し産地の安全性を重視する声もある。</p> <p>来期見通しでも、前期調査から改善傾向にあるものの、需要の停滞から現状維持の状態が続くと見られ、年が明けてからの消費者向け明るい話題に期待する声もある。</p>		<p>節電、節約、エコをキーワードに、節約ムードから利用客の減少や小幅ながら原材料の値上げにより、今期状況は悪化傾向となった。外食を中心として各月により来店客数の好不調がはっきりしている。また、円高やタイの洪水などの影響による生産量調整から輸送量の落ち込みが懸念されるなど、厳しい状態である。</p> <p>来期見通しでも、改善は見込めずこのままの水準で移行するとみており、新年会や送迎会などにおける新たな需要の掘り起こし、サービスの提供が課題となっている。</p>	



とくに好調
(50 DI)

好調
(25 DI<50)

まあまあ
(0 DI<25)

不振
(25 DI<0)

きわめて不振
(DI<25)

当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

()は前回調査時のD・I値